

市民と市長の ほっとミーティング@市長室

平成26年度 第1回 テーマ「防災・防犯」

開催結果報告書

1 開催日時 平成26年（2014年）8月26日（火）

午後7時から午後9時まで

（午後7時から新庁舎見学、午後7時30分からミーティング）

2 開催場所 市役所本館 市長室

3 出席者 参加者9名 傍聴者8名



ほっとミーティングの様子

4 市長あいさつ

皆様、こんばんは。今夜は新しくなった庁舎の見学、さらに「市民と市長のほっとミーティング@市長室」に御参加いただき、誠にありがとうございます。改めて厚く御礼申し上げます。この新庁舎は市民の皆様のお力添えによって完成しました。私をはじめとする職員一同、新庁舎に負けないよう、市民の皆様の目線に立った効率的できめ細かい行政サービスをより一層心がけてまいります。

私が市民の皆様と直接対話させていただくほっとミーティングは平成23年からはじめさせていただきました。平成23年度は「防災対策」、平成24、25年度は「あなたの地域のまちづくり」をテーマに、お伺いした地域の皆様とは様々なお話をさせていただきました。今年度はこれまでを総括するほっとミーティングを開催させていただきます。

御存知のとおり、平成23年3月1日に東日本大震災が起き、自治体や行政のあり方、また、市民の皆様の生活は根底から変わりました。私は直後の4月に就任させていただき、市民の皆様の生命と財産を守るための津波対策を含めた防災対策について、真摯に取り組んできました。また、地域に伺う中、「防災・防犯」、つまり市民の皆様の安心安全に関わるお声を大変多くいただきました。伺った御意見を生かした施策や取り組みは数々あります。そこで、本日は「防災・防犯」をテーマに、ほっとミーティングによる市政への反映や本市の取り組みを私から直接御説明させていただきます。さらに、皆様が日頃の生活の中で感じることや御意見、御提案を聞かせていただき、これからの市政に生かしていきたいと考えています。

皆様からいただく御意見や御質問には、できる限り私から直接お話しさせていただきますが、細かい数字などこの場でお答えできないこともあるかと思えます。その際には担当に確認し、改めてお返しさせていただきますので、よろしく願いいたします。

どうぞ、本日は忌憚のない御意見をよろしく願いいたします。

5 主なミーティングの内容

① 津波対策について

【市長】

東日本大震災において、津波は大きな脅威となり、多くの尊い命が失われてしまいました。御存知のとおり、平塚市も海に面するまちです。私は就任早々、海岸地域を中心とする津波対策に取り組みました。まず、津波からの避難は遠くよりも高く避難する必要があるため、津波避難ビルの指定を進めました。3階建て以上で避難場所を有する建物の所有者や管理組合と自治会、平塚市が協定を結ぶもので、現在公共施設が8か所、民間施設が66か所、合計74か所まで指定が完了しました。合計約7万人が避難できるこの74か所の津波避難ビルにより、線路より南側に住む約4万人の方の避難場所を確保できました。

また、神奈川県が想定する12の地震において、平塚市に一番高い津波が到達するのは、元禄型関東地震と神縄・国府津－松田断層帯地震の連動地震発生19分後に6.9メートルの津波が到達することが予想されています。国道134号の高さが約8メートルあるので、津波が国道を超えることは想定されませんが、津波が河川を遡上する可能性はあり、相模川や花水川に近い地域への被害が心配されます。相模川の堤防については、平塚市側の右岸は約9割の整備が完了しています。四之宮地区の未整備地区約100メートルには、排水整備に併せて堤防を完成させる計画がありますが、茅ヶ崎市側の左岸は堤防整備により時間を要していることから、国土交通省には毎年堤防整備の要望を続けています。花水川についても、神奈川県には、堤防をかさ上げするように要望を強めています。他に具体的なことでは、これまで神奈川県平塚土木事務所が行ってきた花水川水門の開閉について、自動的に行えるよう改良しました。

また、市民の皆様の津波に対する意識啓発を図るため、市内各地域の浸水予測やバッファゾーンという念のため注意を喚起する地域、河川堤防等の高さを表示した津波ハザードマップを作成し、平成24年8月に市内全戸配布させていただきました。

【参加者】

金目川は平塚市の弱点です。河床が高く、堤防も完成していません。津波が金目川を遡上した時には非常に危険です。土手を造り直し、堤防を整備する必要があります。

【市長】

御意見のとおり、金目川は河床が高く、堤防外側の地域よりも高い場所があります。昨年4月の大雨では、金目小学校の対岸が一部崩れてしまいました。管轄する神奈川県と協力し、堤防の修繕や河床の強化など、約200メートルにわたり改修工事を行いました。これからも、河床の浚渫工事や土砂の除去によって流せる水の量を増やすこと、川を安全な流れに変えることが必要ですので、国や神奈川県への要望を続けていきます。

【参加者】

南原地区の自治会でも、金目川の津波遡上が話題になります。先日、災害対策課にて津波ハザードマップの説明を受けたところ、富士見地区にある葬儀場の辺りまで、津波遡上による浸水被害が考えられるとのことでした。先ほどの6.9メートルとは、津波が平行に海岸線まで達する時の高さだと思います。金目川を遡上する時には、津波は次から次に押し寄せ、さらに高く威力のあるものになるのではないのでしょうか。想定外の準備も必要になると思います。

【市長】

津波ハザードマップは狭いところに集中して増幅する津波を想定して作成されています。当然、想定がすべてではありません。より一層の安全のため、堤防のかさ上げについても、要望を続けていきたいと考えます。

【参加者】

市内各地にある海拔表示はとても便利です。特に、海岸地域には増やしてほしいです。また、防災行政用無線ですが、以前に比べれば聞き取りやすくなりましたが、先週行われた総合防災訓練の放送はまったく聞き取れませんでした。風向きなどによる影響はありますが、改善してほしいです。

【市長】

東日本大震災後、海拔表示の数を増やしました。御意見のとおり、万が一に備え、自分がいる場所の高さを認識することが大切です。引き続き、数を増やす取り組みを続けていきます。防災行政用無線については、これまでどの地域に伺っても御意見や御指摘をいただけてきました。補完的な手段としてテレフォンガイドがあります。0180-99-4956、または、22-4956にお電話いただければ、放送内容を確認できます。今後、防災行政用無線からはジェイ・アラート（全国瞬時警報システム）など大変重要な放送も考えられます。風向きや家の密閉性などが聞き取りにくい原因ですが、これまでと同様に定期的な調整など、改善を図っていきます。

【参加者】

最近、広島県で大きな災害がありました。広島県や東北地方も、災害の想定はしていたと思います。災害は起こるものだとすれば、津波や大雨からの避難など、日頃からのトレーニングが大切です。ハード面の整備には限界があります。災害が起きた時、いかに減災に努めるかが重要です。そのためには日頃からの準備や市民が実際に参加する訓練が必要です。

【市長】

海岸地域では、毎年のように訓練を行っていただいています。去年は神奈川県との合同訓練「ビッグレスキューかながわ」を開催しました。津波避難ビルに指定されている神奈川県立平塚工科高等学校では、エリア全体の方が高校に避難する訓練も実施し、生徒が近隣保育園の園児の手を取って屋上まで避難するシミュレーションも行いました。東北地方でも、訓練体験の有無によって被害に差があったようです。今後も、市民の皆様の安心安全のため、行政も一緒になって効果的な訓練を行っていきたいと考えます。

② 災害時要援護者の支援や共助について

【市長】

災害時要援護者は避難行動要支援者と呼ばれるようになりました。これまでのほっとミーティングにおいても、避難行動要支援者に関わる多くの御意見や御指摘をいただきました。

防災対策には、自分自身や家族を自ら守る自助と地域で地域を守る共助、行政や自治体が行う公助があります。最近共助の中に、近くを助けるという意味の「近助」という言葉も聞くようになりました。共助の強化は災害に強いまちをつくれます。例えば、阪神・淡路大震災では、共助によって多くの方の命が救われました。

平塚市にも、避難行動要支援者の方を地域で援護する災害時要援護者登録制度がありますが、市内に約1万2,000人いる避難行動要支援者の方のうち、登録者数は約4,700人、全体の40パーセント程度です。これまで様々な地域で、登録制度が進まないことへの御意見や個人情報保護による情報把握に関する課題への御指摘をいただきましたが、平成25年6月、災害対策基本法の改正によって避難行動要支援者の名簿作成が義務付けられ、有事の際には本人の同意なく地域へ情報提供することが可能になりました。このように、地域の皆様の御協力や法律の改正などにより、災害時に支援を必要とする方を助ける体制づくりは整いつつあります。

【参加者】

現在、自治会の加入率は約75パーセントです。自治会は地域のコミュニティで、災害時には地域の中心になる組織です。しかし、未加入者の情報は把握できません。情報がないことで、救助できない方がいるかもしれません。自治会への未加入者の情報提供についても、今後検討していただきたいと思います。

【市長】

自治会への加入について、特に若い世代の方からは自治会に加入するメリットがないと言われていますが、災害時には自治会への加入未加入は関係なく、すべての人を助ける必要があります。災害時の共助において、自治会は非常に大切なつながりです。自治会によって地域はまとまり、一緒に暮らすことで安心安全につながることを訴えていきたいと考えます。地域に対する自治会未加入者の情報提供についても、今後考える必要があることです。

【参加者】

南原地区の自治会でも同様の課題を抱えています。自治会長と民生委員は災害時要援護者登録制度による避難行動要支援者の名簿を持っていますが、地域の住民は情報を把握していません。災害時、自治会長と民生委員だけではとても人手が足りません。南原地区ではアンケートをはじめており、自治会長判断で支援が必要な方の名簿を作成しています。南原地区で行うこの方法なら、小さな範囲で多くの地域住民が、災害時に支援が必要な方の情報を把握できます。この方法は避難行動要支援者を救う良いアイデアです。

【市長】

地域が独自の方法で情報を集めて把握することは、とても有効な方法であると思います。組や班というより狭い範囲での行動にはとても効果があり、今後の大きな検討材料になると思います。自治会の研修や防災関係の情報交換の場において、このような地域独自の取り組みの紹介を考えていきます。

【参加者】

避難行動要支援者と同様に、災害時の子どもの救助には目を向ける必要があると思います。救助の方法や訓練など、子どもを助ける視点からも考える必要があります。また、子どもは学校に通います。学校での訓練がとても重要です。繰り返し訓練を行えば、必ず子どもは体で覚えます。さらに、子どもの訓練は自宅に帰ってから親に伝わり、家族や地域へも良い影響を及ぼします。

【市長】

子どもは将来の平塚市を支える宝です。学校単位での訓練も引き続き行っていきます。また、子ども会も数は減り、存続自体が危ぶまれる状況ですが、機会があれば、保護者や役員を対象にした地域の危険箇所の確認や行動訓練を行い、子どもの安心安全を呼びかけていきたいと考えます。また、楽しみながら訓練に参加することも大切です。そのような訓練は身につけやすいものです。消火器の使用方法や毛布を使った担架の作り方、三角巾を使ったけがの応急手当の方法など、一度体験することはとても効果があるので、いただいたお話は教育委員会にもお伝えさせていただきます。

【参加者】

寒川町で行われた車いすへの乗せ方や移動の方法を学ぶ訓練に参加しました。訓練を終えて戻ると、平塚市には車いすの設置個所の案内や使用方法の訓練や周知が不足しているように感じます。

【市長】

ペットボトルのキャップを集めて車いすに交換する取り組みがあり、平塚商工会議所の女性部からはキャップを交換した車いす10台ほどを寄付していただきました。市内の公民館や55か所ある避難所には、車いすを設置してあります。災害時にはすぐに使用できるよう、周知を工夫して行うとともに、災害時を想定した車いすを押す訓練も考えていきたいと思ひます。

【参加者】

車いすも重要ですが、おんぶ紐はとても役に立ちます。災害時など、車いすを押して進むことができる道ばかりではありません。高齢者の方や子どもなどの避難のため、おんぶ紐はとても使いやすいと思ひます。

【市長】

御意見のとおり、災害時には車いすが通れない場所もあるかと思ひます。車いすとの併用として、おんぶ紐の利用についても、担当課に御意見をお伝えさせていただきます。

【参加者】

人間、プライバシーに関わることを公表するのは嫌なものです。私が子どもの頃、地域のつながりはとても強かったです。積極的に地域とつながる人は少なくなり、隣にだれが住んでいるかわからないことはよくあります。これからは、災害時に支援が必要な方を含め、住民を引き込むような地域づくりが必要になるのではないのでしょうか。

【市長】

地域のつながりが薄れてきていることは事実です。社会的な現象で、家族構成の変化なども影響しています。御意見のとおり、地域と関わりを持つことでつながりは生まれ、災害時の助けとなります。普段から近所の方と交流をもてるような地域づくりが求められています。

【参加者】

地域で支え合い、共助の気持ちを忘れてはいけません。例えば、地域の回覧板に防災に関わる標語を掲載すれば、回覧板を見る度に意識が高まります。

【市長】

ごみの収集車には標語を張り、走っているものがあります。防災に関しても、回覧板も含めた標語の掲載は効果があると思ひますので、今後考えていきたいと思ひます。

③ 台風や集中豪雨による浸水被害について

【市長】

昨年4月の大雨によって金目川堤防の一部が崩れてしまった時、地域には避難勧告を出し、避難施設を開放させていただきました。金目川から南側の地域の方の避難所は金目小学校でしたが、避難のために大雨によって増水した川を渡らなければなりませんでした。このことを教訓に、新たに金目川の南側の自治会館や神社などに毛布などの備蓄を配備して一時避難場所を確保しました。

広島県では、集中豪雨による大きな災害がありました。平成12年に土砂災害対策法が制定され、平塚市においても、神奈川県が土砂災害警戒区域や特別警戒区域を指定することになり、平成24年には指定のための基礎調査を受けました。風水害時には、特に13か所の重点警戒箇所について消防が巡回を行って調査しています。また、今年度中には、平塚市の土砂災害のハザードマップを作成し、全戸配布させていただくことになりました。特に、土屋地区や吉沢地区、金目地区、旭地区、岡崎地区、城島地区の皆様には、自宅や地域の危険な場所を把握し、災害対策に役立ててほしいと考えます。さらに、大雨の時にいち早く気象状況を把握するシステムも導入し、早急な避難の呼びかけに努めています。私も現場には行きましたが、金目川周辺の地域の皆様には本当に怖い思いをさせていただきましたので、これからは命を守るための情報の発信を早く行う必要があります。

集中豪雨による浸水被害対策として、今年度から平成40年度までの短期、中期の浸水対策箇所を定めた「平塚市総合浸水対策基本計画」を策定いたしました。これまでも、地域全体で1時間に50ミリメートル程度の雨に対応する整備を進めてきました。平成19年に平塚競輪場の周りが集中豪雨によって水没してしまいましたが、大きな貯留管を埋め込んで対応を図りました。他にも浸水対策は様々あり、地域への土のうステーションの設置や公共用地を利用した流出抑制型施設の整備、河川の逆流を防ぐ装置などがあります。計画に基づき、今後も総合的な浸水対策を行っていきたいと考えます。

【参加者】

防災行政用無線ですが、台風や集中豪雨の時にはほとんど聞こえません。先ほどのテレフォンガイドも有効ですが、災害情報などが自動的に携帯電話にメールで送られてくる方法などがあれば良いと思います。また、大雨によって溜まった水を拡散して流す対策についても聞きたい。

【市長】

東日本大震災では、携帯電話はつながらず、メールの送受信ができなくなりました。このことを教訓に、平塚市ではツイッターによる情報発信をはじめました。また、携帯電話各社の緊急速報メールを活用し、災害時には緊急情報が携帯電話に飛び込むように運用しています。平塚市内であれば、登録の必要はありません。

溜まった水を拡散させる手立てについては、下水道整備計画の中で、直径3メートルほどの大きな貯留管を埋め込む対策を行っていきます。平塚市は河川下流域のまちです。上流地域の雨量の影響を非常に大きく受けますので、上流地域の正確な雨量やダムの放流などの情報の把握にも努めています。

【参加者】

以前、競輪場の周りが浸水した時、ポンプも水没してしまいました。その後のポンプへの対策について聞きたい。

また、平塚市には線路の下に地下道があります。地下道が水没した時には南北が寸断されて非常に危険です。

【市長】

競輪場周辺の浸水以降、雨水ポンプ設置箇所に止水版を設け、非常用発電機を高い位置に設置しました。

地下道についても、これまでの経験を生かし、水が溜まってしまう危険な場所ごとの対応を下水道整備計画に盛り込みながら、地域の皆様の安心安全に努めていきたいと考えます。

④ 防犯対策について

【市長】

防犯対策については、いくつかのポイントがあります。

はじめに、街路灯です。街路灯には市で管理する防犯街路灯と道路照明灯、自治会が管理する防犯街路灯、商店街が管理する商店灯があります。10月までに、市が管理する防犯街路灯約4,700灯を、リース方式で一括LED化します。これにより、既にLED化済の約1,900灯を加えた約6,600灯のLED化が完了します。昨年度のほっとミーティングで四之宮地区に伺った際にも、参加者の方からはLED化による電気料金の節約のお話を伺いましたので、自治会が管理する防犯街路灯のLED化への補助についても、継続して行っていく予定です。

次に、防犯カメラです。12月頃を目途に、平塚駅西口南側の階段下付近に防犯カメラ1基を設置します。これまで市では、平成22年に、駅周辺で多発する犯罪に対応するため、北口に2基、南口に1基、西口北側に1基、防犯カメラを設置しましたが、西口南側が未設置であったため、平成26年度中に設置し、犯罪抑止力の一層の強化を図ります。

教育に関わる予算も増やし、学校の安全対策も進めています。港地区で開催したほっとミーティングでは、不審者が多く、学校や子どもの安全対策が必要との御意見をいただきました。御意見を今年度の予算編成に盛り込み、外部からの侵入による犯罪を防ぐため、各小中学校への防犯カメラの設置を進めています。

これまで、交番の位置や増設についても、多くの御意見をいただきました。交番は、平塚警察署の地域課が管轄しており、平塚市内に21か所あります。一定の範囲には複数の交番を設置することはできないようですが、自治会や町内会などの地域と交番は連携を強め、防犯や安全対策に努めていただきたいと思います。

振り込め詐欺の被害も増え、平成25年は、振り込め詐欺の被害が全国的に急増し、市内でも被害総額は約1億160万円、前年比7,875万円増加となり、過去最悪になってしまいました。このため今年6月には、平塚警察署との共催で「振り込め詐欺撲滅市民総決起大会」を開催し、意識啓発を図っています。本市における犯罪件数自体は減少していますが、平塚市は体感治安が悪いと思われていますので、今後も実際の犯罪を減らし、安全なまちの印象を持っていただけるように取り組んでいきたいと考えます。

【参加者】

例えば、小田原市などでは、民間の自動車による青パトが市内を走り、防犯活動に取り組んでいます。警察や市役所だけでなく、民間の協力を得ることはとても効果があると思います。平塚市における青パトの取り組みについて聞きたい。

【市長】

平塚市では、防犯協会を中心に青パトの活動に取り組んでいます。御意見のとおり、今市民の皆様や民間のお力を借りることはとても重要なことです。青パトの詳しい活動内容については、担当課に確認してお答えさせていただきます。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

青パトは、警察署が防犯活動に識見があると認めた団体・個人で、且つ警察署からパトロール実施証明書を交付された団体・個人が行えることになっており、市内では、現在、主に平塚市防犯協会会員（民間人）の車両33台が警察の登録を受け、会員による自主的な青パト活動が行われています。

本市では、平塚警察署及び平塚市防犯協会との連携により地域の防犯に取り組んでおり、今後もこうした連携・協力体制を継続することで、青パトをはじめとする各種防犯活動の活性化を図ってまいります。

（事務担当は危機管理課危機管理担当）

本市では、教育委員会等の車両21台が青パトの登録を受け、子どもたちの安全を守るため、必要に応じ登下校の時間に通学路付近を中心にパトロール活動を行っています。

（事務担当は教育総務課学務担当）

【参加者】

平塚駅には、観光客や他市町の方を暖かく歓迎する雰囲気がありません。このことはシティセールスに関わると思います。例えば、七夕まつりに来た方に対し、観光や歴史、自然を売り出して歓迎することで、リピーターになってくれるのではないのでしょうか。さらに、平塚駅での温かい歓迎は、まちの治安にもつながると思います。

【市長】

シティプロモーションのお話についても、これまでのほっとミーティングでは話題になりました。平塚市の良いものをもっと売り出すべきという御意見です。実は、SCN（湘南ケーブルネットワーク）と協力して、平塚市の恵まれ

た子育て環境などを宣伝するプロモーション映像を作成して放送しています。平塚駅の看板も含め、平塚市の魅力を広めて知ってもらうように取り組み、治安対策にもつなげていきたいと考えます。

【参加者】

最近、街路灯の照度が下がった気がします。また、設置位置が高いために上の方は明るいですが、肝心な地面の辺りが暗い気がするので、照度の調整や設置位置の検討を行う必要があるかと思えます。

また、平塚駅前の交番は改札を降りたところに戻すべきです。階段下辺り、人の行き来が多いところのビラ配りや呼び込みなど、危険な気がします。

駅前商店街の自転車も一掃すべきです。駐輪場整備によってかなり不法駐輪は減りましたが、災害時の避難経路などを考えると、自転車は一掃するべきではないでしょうか。例えば、小田急の相模大野駅は平塚駅よりも多くの不法駐輪であふれていましたが、今は自転車を一掃しました。ぜひ参考にしてほしいと思えます。

【市長】

LEDの光は拡散せずに直進するそうですが、照度を下げるのであれば、設置位置を低くするなどの工夫が必要ですので、今後の検討材料とさせていただきます。

平塚駅の交番についても、機会をとらえて警察にお話しさせていただきたいと考えます。

市民の皆様の御協力により、平塚駅北側の不法駐輪はなくなりました。御意見いただいた防災対策に関わる今後の自転車対策には、商店街を利用される方の利便性との兼ね合いが難しい課題です。買い物への利便性と安心安全とのバランスを考慮しながら取り組んでいきます。その際には、ぜひ相模大野駅の取り組みを参考にさせていただきたいと考えます。

【参加者】

街中や駅周辺の防犯カメラはとても効果があると思えますが、事件は人気がないところで起きています。地域の危険な場所にも、防犯カメラの設置などの対策が必要になってくると思えます。

【市長】

今後考える必要があることですので、地域への呼びかけを考えていきます。例えば、自治会や町内会が地域の危険な場所に防犯カメラを設置する際の補助などを考えていきたいと思えます。

7 市長によるまとめ

本日は「防災・防犯」をテーマに、皆様にはお集まりいただき、大変貴重な御提案などをいただきました。改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

日頃から、このように直接市民の皆様の御意見を伺うことで、皆様の立場に立った政策を行うことができると感じています。今日いただいた御提案や御意見は参考にさせていただき、ぜひ形にできるよう取り組んでいきます。

広島県の災害を受け、改めて日本の気候は変わってきていると感じました。地震についても、東海地震や南関東地震はいつ起きてもおかしくないと言われています。我々は市民の皆様の生命と財産を守るべく、責任を持って公助に取り組みます。ぜひ、皆様におかれましては、自助や共助を意識していただき、日頃の備えへの御協力をお願いいたします。

今後も災害に強く、住みやすいまちづくりを進めたいと考えていますので、御協力をお願いいたします。今日は御参加いただき誠にありがとうございました。

アンケート結果報告

【回答数 15件】

年齢

20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明
0名	1名	1名	2名	5名	6名	0名

性別

男性	10名
女性	4名
回答なし	1名

質問1 今回の「ほっとミーティング」の開催はどこでお知りになりましたか。

回答

広報ひらつか	6名
市ホームページ	2名
ポスター	3名
自治会など地域から	1名
その他	3名
回答なし	0名

質問2 市長の説明や市長との対話はいかがでしたか。

回答

よかった	10名
まあよかった	5名
どちらともいえない	0名
あまりよくなかった	0名
よくなかった	0名
回答なし	0名

質問3 本日の「ほっとミーティング」のご感想について。

回答

- ・テーマは一つに絞ったほうが良いと思いました。
- ・市長のお話は大変良く理解できましたが、少し長いと思います。
- ・参加者の発言を多くした方が良いと思いました。
- ・市長は忙しく大変ですが、今後も実施してもらいたい。
- ・参加者の意見を聞くことができて良かった。
- ・テーマの時間配分を考える必要がある。
- ・市長の防災に関する知識の高さに驚きました。
- ・発言者の意見も的確で意義ある「ほっとミーティング」でした。
- ・行政や家庭、企業全体が一体となった対応が必要である。
- ・市長の回答も具体的で良かった。
- ・参加者の発言も多くて良かった。
- ・活発な議論でした。
- ・有意義な会ではなかったと思う。
- ・時間が少ない中、参加者が多く発言できて良かった。
- ・答弁でなく、話し合いができるようになればもっと良くなる。
- ・皆さんから、「良いまちにしたい」という気持ちが伝わってきました。